

# 第110回歯科医師国家試験の総評と今後の展望

東京デンタルスクール／歯科医師

岡田優一郎  
Yuichiro OKADA

2017年2月4日、5日に第110回歯科医師国家試験が行われた。

本稿では、今回の第110回歯科医師国家試験の傾向、今後の歯科医師国家試験の流れや取り組み方について紹介したい。

## 近年の歯科医師国家試験の傾向

近年の歯科医師国家試験の傾向として挙げられている下記の事柄については、全体的な方向性は踏襲された。

### 1. 英語、時事問題の出題

英文の空欄に当てはまる英語を解答させる問題、近年の生物的事項に関する時事問題、医学史に関する問題は今年も出題された。例として、図1に第110回歯科医師国家試験に出題された問題を示す。

[110A-10]

Avoiding the frequent intake of fermentable carbohydrates, especially sucrose, in diets is important for the ( ) of early childhood caries.

( )に入るのはどれか。1つ選べ。

a : treatment    b : prevention    c : restoration  
d : development    e : decalcification

解答：b

図1 第110回歯科医師国家試験に出題された問題（英語を解答させる問題）

### 2. 医学的知識への拡充、新しい治療法に対する知識

医学的知識を問う問題が多く出題されたことも、今回の歯科医師国家試験の特徴であった。それだけ「医学的知識を理解している歯科医師」が求められているといえよう。

加えて、新たな治療法に対する知識を問う問題も変わらず出題された。例として、図2、3に第110回歯科医師国家試験に出題された問題を示す。これらの問題は、開業医にとっては一般臨床で触れることが少ない医学知識となっている。

### 3. 高齢者、嚥下、救急災害時の歯科保健対策、法歯学などに関する問題

高齢者対策への社会的なニーズが強まっているなか、平成26年度版歯科医師国家試験

[110C-52]

遠隔操作式小線源放射線治療装置で用いるのはどれか。1つ選べ。

a :  $^{18}\text{F}$     b :  $^{67}\text{Ga}$     c :  $^{192}\text{Ir}$     d :  $^{198}\text{Au}$     e :  $^{255}\text{Ra}$

解答：e

図2 第110回歯科医師国家試験に出題された問題（医学的知識を問う問題）

[110C-125]

失神発作を伴いやすい不整脈はどれか。1つ選べ。

a : 心房細動    b : 右脚ブロック    c : 上室性期外収縮  
d : 心室性期外収縮    e : 高度房室ブロック

解答：e

図3 第110回歯科医師国家試験に出題された問題（医学的知識を問う問題）

[110A-54]

改訂水飲み検査で正しいのはどれか。2つ選べ。

a : 温水を用いる。    b : シリンジを用いる。    c : 30mLを嚥下させる。  
d : 口腔底に水を入れる。    e : 5回繰り返して評価する。

解答：b、d

図4 第110回歯科医師国家試験に出題された問題（摂食嚥下に関する問題）

[110A-108]

父娘関係の鑑定に用いられるのはどれか。1つ選べ。

a : X染色体DNA    b : Y染色体DNA    c : リボソームRNA  
d : トランスファーRNA    e : ミトコンドリアDNA

解答：a

図5 第110回歯科医師国家試験に出題された問題（法歯学に関する問題）

基準でも問題の充実が求められていた「高齢者に関する出題、摂食・嚥下に関する問題」「救急災害時の歯科保健対策・法歯学」に関する問題も変わらず出題された。

嚥下に関する具体的な手技については、歯

科医師となった後に学ぶような内容も含まれている。また、法医学についての知識も実用的な内容となってきている。例として、図4、5に第110回歯科医師国家試験に出題された問題を示す。

表① 歯科医師国家試験の受験者数と合格者数、合格率の推移

回数	全体			現役者のみ		
	受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)	受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)
第103回	3,465	2,408	69.5	2,355	1,921	81.6
第104回	3,378	2,400	71.0	2,356	1,928	81.8
第105回	3,326	2,364	71.1	2,311	1,882	81.4
第106回	3,321	2,366	71.2	2,373	1,907	80.4
第107回	3,200	2,025	63.3	2,241	1,642	73.3
第108回	3,138	2,003	63.8	1,995	1,457	73.0
第109回	3,103	1,973	63.6	1,969	1,436	72.9
第110回	3,049	1,983	65.0	1,855	1,426	76.9

表② 私立大学における第110回歯科医師国家試験の出願者数と受験者数、合格者数(新卒)

	出願者数	受験者数	合格者数
東京歯科大学	135	115	107
昭和大学	98	94	76
日本大学松戸歯学部	102	82	65
愛知学院大学	121	96	72
日本大学	124	115	71
大阪歯科大学	134	81	74
北海道医療大学	63	46	33
松本歯科大学	81	46	41
日本歯科大学	159	128	80
岩手医科大学	78	47	36
日本歯科大学新潟	64	38	28
明海大学	132	56	52
神奈川歯科大学	124	57	48
奥羽大学	44	31	17
朝日大学	142	76	50
福岡歯科大学	82	59	26
鶴見大学	120	42	25

表③ 私立大学における第108回～110回歯科医師国家試験の出願者数に対する合格者数の割合(%)

	108回	109回	110回
東京歯科大学	83.8	81.6	79.3
昭和大学	79.2	77.0	77.6
日本大学松戸歯学部	56.0	39.4	63.7
愛知学院大学	63.6	59.4	59.5
日本大学	63.6	65.4	57.3
大阪歯科大学	54.5	53.8	55.2
北海道医療大学	41.6	30.9	52.4
松本歯科大学	18.8	37.0	50.6
日本歯科大学	56.1	62.3	50.3
岩手医科大学	36.1	31.3	46.2
日本歯科大学新潟	53.2	59.3	43.8
明海大学	37.1	30.3	39.4
神奈川歯科大学	43.4	43.3	38.7
奥羽大学	25.5	29.6	38.6
朝日大学	41.1	34.8	35.2
福岡歯科大学	52.0	38.0	31.7
鶴見大学	36.6	26.9	20.8

今回の第110回歯科医師国家試験は、第107回歯科医師国家試験より採用された現行の歯科医師国家試験出題基準(平成26年度版歯科医師国家試験基準)での最後の出題となる。その影響かは不明であるが、今回の歯科医師国家試験は基本的な問題が多く、正しく学習している学生が合格しやすい傾向であったように思える。

しかし、史上最少の合格者数であった第109回歯科医師国家試験の難易度、近年の歯科医師国家試験合格率の低下を受け、大学側における卒業の難化傾向は著しいものとなった。また、卒業試験の合格点の引き上げや回数の増加、卒業基準の厳格化に伴い留年者が増加し、国家試験の受験者数も過去最少となった(表1)。

昨年も、国家試験の受験者数が出願者数の半分以下の大学や、国家試験は受けさせないが卒業だけを認める三次試験を行った大学は存在していたが、今年はその数が増加している。さらに、国家試験出願者数のうち、国家試験合格まで至ることができたのは、わずか20%程度という大学も少なからず存在した。

表1における合格率は、あくまで受験者数に対する合格率であるため、出願者数に対する合格率でみると、その数値はさらに低下することとなる(歯科医師国家試験の出願自体は、卒業試験前の11月ごろに行われる)。

表2、3に私立大学における第110回歯科医師国家試験出願者数、受験者数、合格者数(新卒)、私立大学における第108回～110回歯科医師国家試験の出願者数に対する合格者数の割合の変遷を示す。

## 新たな主題基準

歯科医師国家試験は、4年に1度出題基準の改善を行っている。第111回歯科医師国家試験より、新たな出題基準での試験となる。

平成28年3月29日に厚生労働省より発表された「歯科医師国家試験制度改善検討部会報告書」では、出題基準について以下の内容の充実を図るべきであるとされている。

- ・高齢化などに伴う疾病構造の変化に伴う歯科診療の変化に関する内容
- ・地域包括ケアシステムの推進や他職種連携等に関する内容
- ・口腔機能の維持向上や摂食機能障害への歯科診療に関する内容
- ・医療安全やショック時の対応、職業倫理などに関する内容

また、同報告書では、出題形式、出題数についても、以下のとおり言及されている。

### 1. 問題数の見直し

現行の歯科医師国家試験は、「必修問題70問、一般問題190問、臨床実地問題105問の計365問」であるが、これを「必修問題80問、一般問題180問、臨床実地問題100問の計360問」に見直す。その結果、絶対評価である必修問題の全体に対する割合が増加する。

### 2. 問題の形式の多様化

現行の歯科医師国家試験では、以下の出題形式が採用されている。

- ①Aタイプ：5つの選択肢中から1つの正解を選ぶ形式
- ②X2タイプ：5つの選択肢中から2つの正解を選ぶ形式
- ③XXタイプ(スーパーX)：5つの選択肢中

から正解となる選択肢をすべて選ぶ形式

④LAタイプ（多肢選択肢問題）：6つ以上の  
選択肢中より1つの正解を選ぶ形式

⑤計算問題：選択肢ではなく、計算した回答  
をそのままマークシートに書き込む形式  
さらに、第111回歯科医師国家試験より、  
上記の出題形式に加えて、次に示す出題形式  
が採用される。

- X3、X4タイプ：5つの選択肢中から3つ  
もしくは4つの正解を選ぶ形式
- 順番問題：治療手順などを正しい順に解答  
させる形式

### 3. 問題の出題構成

現行の歯科医師国家試験では、問題冊子で  
必修問題および一般問題と臨床実地問題に分  
かれている。今後、一般問題と臨床実地問題  
を合わせた連問など、幅広いかたちでの出題  
を可能にするため、冊子中に必修問題、一般  
問題、臨床実地問題を均等に出题するよう見  
直す方向である。

問題の評価領域分類（タクソノミー）にお  
いても、単純な知識の想起により解答できる  
問題（I型）ではなく、与えられた情報を理  
解・解釈して、その結果に基づく問題（II型）  
や設問文の状況を理解・解釈し、各選択肢の  
もつ意味を解釈して具体的な問題解決を求め  
る問題を増やすべきとしている。これは、「基  
本的な事柄を回りくどく問う」問題の増加を  
意味する。



#### まとめ

歯科医師国家試験の難関化という世論のな  
かで、第110回歯科医師国家試験が行われた。  
変貌を遂げる国家試験の流れに対応すべく、

各大学においても現行の歯科医師国家試験に  
対応したカリキュラムの作成や試験に合格で  
きる学生のみを選抜している。そのため、低  
学年で留年する学生が増加している。

歯科医師国家試験出題基準の改革は、従前  
より必要とされてきた“皆が正解できる問題  
を確実に正解する能力”のみならず、“同じ  
意味の事柄を、他の言葉に変換する能力”を  
も必要とするものであり、確実な理解、確実  
な知識の定着がより要求されてくるであろう。

学生もこの流れに対し、低学年の時点より  
将来のCBT（computer based testing）や国家  
試験を見据えた学習習慣の確立が求められる  
ため、今後は丸暗記や一夜漬けでは、進級や  
卒業対策に破綻を来すようになると思われる。

大学側においても、歯科医師国家試験に対  
応できるカリキュラムの構築、学習に不安の  
ある学生のフォロー、予備校との提携など、  
1人でも多く突破できる学生を増やすような  
対策が引き続き行われている。

ここ数年の歯科医師国家試験の一方向的な難  
問・奇問を中心とする問題と比較し、今回は  
“過去問題の対策が得点に直結する”問題が  
多く、原点回帰の傾向がみられた。そのため、  
受験生の“努力が結果に繋がる”試験であり、  
全国の歯学部や予備校、受験生からは高い支  
持を得た。今後モデルになるであろう理想の  
歯科医師国家試験となった。

2018年の第111回歯科医師国家試験より出  
題基準が変更となるが、難問・奇問を中心と  
した出題ではなく、今回のような努力が結果  
に繋がる方向性の出題が続くことを切に願う。

【執筆協力】

岩脇清一（東京デンタルスクール／歯科医師）